

○議長 小田 武人君

次に、8 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

8 番、田島憲道でございます。先ほど刀根さんのチャレンジ、チェンジ、チャンス。三つのキーワード、格好よかったですね。私もちょっと挑戦して、質問させていただきたいと思います。それでですね、皆さんにちょっと聞いてみたいと思います。

携帯はスマホの方、スマホを使っている方。〔挙手する者あり〕ほぼ皆さん、町長もですね、i P h o n e ですね、町長。

そして、アマゾンをやっている方、アマゾンで本を買ったりとか。〔挙手する者あり〕半分ぐらいですね。このアマゾンすごいですよね。1 回買ったら、次々と欲しい物送ってきて、知らせてくれますね。これはビッグデータといって、集約して、人工知能でこういうふうに使ってしております。

先ほども話出ていましたが、地方に行けば町長、前回も言われていましたが、公園を見ればその町がわかるということで、私はこれ、本屋だと思っているんですよ。本屋に行って、その陳列のいろいろな本を見てみると、その地方がどんな人たちが住んでいるのかなというのがわかる気がしておりますが、幸いにも芦屋町、本屋がありません。そして、僕はよくアマゾンで、本などを買うときにはアマゾンを利用しています。これ、皆さん、スマホで注文しますか、それとも自宅でパソコンでやっていますか。パソコンでクリックしている場合は、やっぱり光ファイバーとかいうのをつけて W i - F i でやっていますよね。タブレットでやっているとか、スマホでやって、さくさくやっていたりとかしますが。

9 月に皆さん御承知のとおり、僕、中国に行っていて、中国で町中に出ると、皆、子供から大人まで、おばあさんまでスマホをやっているんですよ。これ、中国政府の国策なんですよ。インターネットプラスワンということで、インターネットを使って何かやりましょうということなんです。

皆さん、ウーバー御存知ですか、ウーバー。きょう緑色の資料を用意させていただきました。こちらの 2 ページのところ、見ていただけますか。これですね、安倍総理も大変気に入って、関係機関に「これを研究しろ。」と指示を出しているというんですね。これですね、ウーバー、世界一のタクシー会社、車を 1 台も持っていません。これ、個人の車で登録します。僕はこれ、中国で目の当たりにしました。スマホでですね、タクシーに乗りたいたときに、ぽっとクリックするんですね。するとですね、地図があらわれて、車がこういうふうにして、A 車、B 車、C 車がこっちに向かってくるんですよ。一つは 5 分、7 分、9 分かかるといことなんですよ。それで、一つ一つその触っていくと、運転手が誰かわかるんですね。プロフィールが出て。やっぱり女の

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

人の車に乗りたいなと思ったら、その女の人を選ぶんですね。これ、初めて会う人、心配じゃないかということの評価がちゃんと出ていますよ。この人はいい人だと 5 段階評価が出ていてですね、これですね、大変、すごい便利だと思うんですね。料金は全部携帯電話で引き落としだから、全然トラブルもないしですね、個人の車をもものすごくきれいにしているから、これがあればですね、交通弱者の問題とか、公共バスの交通問題とか、全て解消できるんじゃないでしょうかと。このシステム GPS を使ったこのアプリですね、これを利用すればですね、さまざまな問題を解決してくれるんじゃないかと思います。

これらはですね、第 4 次産業革命なんですよ。ドイツでは工業系のインダストリアル 4.0 や、アメリカではインダストリアルインターネットなどと提唱されています。IOT やインターネットテクノロジーという、いろいろな分野でインターネットが全てに絡み合ってきています。私たちは今、それを体現している世代なんです。

きょうはこれから皆さんがつくっていく実施計画の中で、そのようなムーブメントが現実に来ているということを念頭にさせていただき、ちょっとでもこれからの施策に反映してもらいたいと思っております。

では、早速ですが質問です。地方創生及び活力ある産業を育むまちづくりについてです。

政府は、去年 11 月 28 日に「まち・ひと・しごと創生法」を公布後、これに基づき、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 年の政府の施策の方向を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。さらに芦屋町でも、「芦屋町人口ビジョン」及び「芦屋町まち・ひと・しごと総合戦略」を今年度中に策定するよう示され、現在、大詰めの作業中と聞いています。そこで、以下の点についてお尋ねします。

1. 今日までの定住化促進施策について、これは刀根議員と重複しておりますが、①過疎債のソフト事業等を……ここ、ちょっと訂正してください。過疎債のソフト事業等を使い、先行して取り組んでいる各種の助成金事業、出産祝金事業、定住促進奨励金や中古住宅の解体・新築住宅建築補助事業などがありますが、その利用状況はどのようになっていますか。簡単な概要を含めお尋ねします。

○議長 小田 武人君

執行部の答弁を求めます。健康・こども課長。

○健康・こども課長 武谷久美子君

子育て世帯の定住化と出生率向上を図るとともに、子育て世帯を応援する取り組みといたしまして、平成 27 年 4 月より、芦屋町出産祝金事業、芦屋町新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度をスタートしました。

芦屋町出産祝金事業につきましては、平成 27 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日までに出

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

産した一定基準を満たした世帯に対し、出産祝い金を交付するもので、第 1 子は 5 万円、第 2 子は 10 万円、第 3 子は 20 万円で、現在までの交付状況といたしましては、21 件 235 万円となっております。

次に、芦屋町新婚世帯民間賃貸住宅家賃補助制度につきましては、平成 27 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日までに婚姻の届け出をし、かつ夫婦の合計年齢が 80 歳未満の夫婦を含む世帯が対象となっております。また、子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度につきましては、平成 27 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日までに町外から転入した世帯で、かつ未就学児を含む世帯を補助対象といたします。いずれも町内の民間家賃住宅に新たに居住する一定基準を満たした新婚・子育て世帯に対し、家賃の一部として月額上限 2 万円を最長 3 年間補助するものです。

交付状況といたしましては、年度分を一括交付いたしますので、28 年 1 月に申請を受け付け、3 月に一括交付予定であるため、現在実績はございません。

以上です。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

続きまして、企画政策課総合政策係の所管であります定住促進奨励金、先ほど説明した分と重なりますが、概要としましては、平成 30 年 1 月 1 日までに町内で戸建て住宅を取得した人で、新たに固定資産税が課税された人を対象に、各年度 15 万円を限度として、3 年間で最大 45 万円の商品券を交付するものです。

26 年度実績は、28 世帯に約 189 万円、27 年度は継続分と新規分、現在審査中ですが、概算で 74 世帯、約 600 万円弱となる見込みでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 井上 康治君

それでは、地域づくり課所管分です。

中古住宅解体後の新築住宅建築補助金については、平成 30 年 3 月 31 日までに申請したものが対象で、中古戸建て住宅を購入し、2 年以内にその住宅を建てかえて居住する世帯または 2 親等以内の親族が所有する住宅の解体から 2 年以内にその住宅を建てかえて居住する世帯で、床面積が 50 平米以上、その 2 分の 1 以上が自己の居住用に使用されることが条件になります。交付額は、家族構成や解体費用の上限等にもよりますが、最大で 100 万円交付をいたします。

交付実績は、26 年度が 1 件で交付額は 90 万円、27 年度、今現在 1 件で交付額は 90 万円

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

となっています。なお、申請中が 1 件あります。

次に、老朽危険家屋等解体補助金は、平成 30 年 3 月 31 日までに申請したものが対象で、解体及び撤去を行う資格を有する町内の事業者による建築物解体工事が対象で、町が定める家屋等の老朽度判定基準の点数が一定以上あることなどの条件があるほか、併用住宅を含む店舗や倉庫、車庫などの単体単独建築物は対象外となります。交付額は解体に要する費用の 2 分の 1 以内で、上限は 50 万円です。

交付実績は、26 年度 11 件で交付額は 519 万 8,000 円、27 年度、今現在 3 件で交付額は 119 万 9,000 円となっています。なお、申請中が 7 件あります。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

解体費用の補助金なんかすごいなあ。今、感想ですね、思っております。これらはですね、このような、ラミネートしました。すごいですね、すごく見やすく、いいものができておりますが、これらはですね、一体どのように周知、告知を皆さんにしているのかなと思います。ホームページを見ると、何かちょっとわかりづらいなあというふうですね。バーナーが黄色いだけなんです。これは、窓口、住民課に相談に来られて、周知するのかなということ、ちょっとお聞きします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

定住施策のですね、そういうチラシ等、所管、いろいろ分けてやっているんですけど、今、ちょっとまだ発行には至っていないんですが、こういう「芦屋で暮らす」という冊子を今、つくってまして、一応中身はほぼ校正が終わりまして、その中にですね、芦屋町全体の暮らしを応援する支援制度と、こういう部分を一覧表で、バスならこういう感じ、定住促進ならこういう感じということで、今、一覧表をつくっていますので、今後、各所管、所管でこれについては、あの課に聞いてくださいとかいう話になっていますけど、これをですね、発行を近々すれば、全戸配布と営業上いろいろなところにもですね、不動産屋さんとか、いろいろなところを持っていって、今、取りまとめの作業の最終段階ですので、一応それができれば各所管に同じものが並べられて、情報の一本化、要するに集中してそこから発信するというふうな内容になるかと思っておりますので、今しばらくお待ちください。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

実は、提案しようかなと思ったら、もう、さすがですね、先にやられていたということで、でき上りを楽しみにしております。

芦屋町はですね、過疎対策ということで、ハード、ソフト面ということで、いろいろなことをやってこれました。しかし、これからの地方創生戦略では、ほかの自治体からもいろいろなことが出てくると思います。これはアイデア合戦なんです。本当に熾烈なパイの奪い合いが本気で始まってくると思います。

そして、では②の 10 月から始まった小・中学生、高校生などの通学費補助の利用状況をお尋ねします。

○議長 小田 武人君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

11 月 27 日付で 12 件、全て高校生ですが、約 2 万 3,000 円を保護者が指定する口座に振り込んでいます。また、処理をした以外に、11 月 30 日の時点において、十数件の申請が出ています。ただし、現時点において、芦屋東小学校の児童に関する補助金の申請は出ておりません。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

課長、声がハスキーですね。色っぽいです。

これらはですね、大変評判がよろしい波多野町政のことしの目玉じゃないかと思うんですよ。ですね、もう一つ欲を言えばですね、働いている人たち、正社員ばかりじゃないんですよ。非正規、派遣とかパートで家計を、それで家計に携わっているというか、また、交通費もですね、ろくに出ないような会社がやっぱりあるようなんですよ。そんな社会人にもですね、拡充されれば、バスの利用者もふえるのではないのかという意見もあります。

そして今ですね、なぜ芦屋町からこうも人口流出が、それも 20 代、30 代、40 代の子育て世代で、そういうのが起きているとよく聞いておりますが。

先日ですね、うちの母が黒崎のマンションを売って芦屋に帰ってきました。普通に仲介業者に販売をお願いしたんですよ。これ、売れたんですが、皮肉にも実は芦屋の人でして、鑄鍛鋼に住んでるというんですよ。30 代の夫婦でした。母が理由を聞いたらですね、やっぱり「バスのア

クセスが悪いんですよ。」ということをしきりに言ってたと言うんですよ。

そこでですね、唐突ですが、私、ちょっと提案させていただきたいと思います。

タウンバスですね、改善なんです、タウンバスの停留所、これを 3 カ所か 5 カ所、これだけでいいと。例えば、山鹿のコンビニのところ、はまゆうスーパー、競艇場とかですね、そこまで来てもらって、遠賀川駅までピストンするのがいいんじゃないかと。夜になると、10 人程度のワゴン車クラスでそれをやると。これですね、市営バスじゃなくてもいいんですよ。タクシー会社でもいいんですよ。市営バスのことは、僕は考えなくてもいいと思うんです。病院が移ったら、そこから市営バスは病院と折尾の往復だけでいいと思います。去年、一般質問でもちょっと話しましたが、折尾駅まで市営バスで行くと、花野路をこう回って 40 分かかるんですよ。雨が降ったりしたらもう 1 時間なんですね。遠賀川駅までは 15 分なんですよ。こんな距離でたった 15 分で、夜になると 10 分程度ですよ。こんな距離で陸の孤島と言われるのは、僕はちょっと理解しがたいのです。

それでですね、私、今、小倉に夜、学校に通ってまして、小倉駅 2 時 3 分の JR に乗るんです。それで帰ってくるんですよ。遠賀川駅に着くとですね、次のバスまで 30 分ぐらい待たないといけないんですよ。バスは最終 2 時 5 分です。これは、僕は、幸いにも毎日じゃないんですけど、これが毎日の人がいるんですよ。親や奥さんが迎えに来れない、またタクシーを使えないそういう、タクシー高いですからね、1,800 円か 2,000 円ぐらいするみたいなんですけど、大変な思いをしているということをちょっとまた、お伝えします。

では②の質問にいきます。

定住化促進施策として、防災、防犯、商工観光振興を視野に入れた、町内全域を公衆無料 Wi-Fi 化する考えはないか。ちょっとこれ、説明させてください。

6 月の議会で松岡議員の一般質問、そして先ほどもありました。防災無線の話がありましたが、防災の放送無線については、聞こえない、聞こえにくいというところがあって、そうなった場合緊急メール、携帯会社が携帯メールで自動配信しますとの答弁がありました。しかし、携帯電話回線がパンクしたら、どうするの。それと、これをですね、以前からちょっと考えてまして、今回一般質問に取り上げました。

実は 9 月の県議会で、県内 7 カ所で防災、観光を含めた Wi-Fi 化が進められていると発表されました。国の補助金が半分来るといことなんなんです、そこで私は、芦屋町は大変コンパクトな町なので、これはぜひ町も名乗りを上げてほしいと思っています。ということで、答弁をお願いいたします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

今、地方創生推進委員会の中でいろいろ議論を進めている中で、このW i - F i の整備につきましても、特に観光に関して、その必要性が議論されております。現在、素案のまとめの段階でするので確定的なことは言えませんが、考え方では、まず光ファイバーの環境が整っている公共施設については、取り組めないかということで検討しているところでございます。さらに次のステップでは、観光ゾーン、それから、中心市街地への拡大が図れないかという議論もあっております。いずれにしても観光立町を目指す町としては、このような取り組みの必要性は認識しております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

なかなかいい流れの話を聞いて嬉しく思っています。これがですね、なぜ定住化や流入施策になるかと言いますと、最近、P T A の連絡網でも携帯電話でのやりとりが多いんですよね。そもそも家に固定電話がなかったりする家庭もあります。やっぱりインターネットの環境をつくると月 5, 0 0 0 円固定費とプロバイダー代とかかかりますし、家族一人一人にスマホを渡すとですね、結構なお金が、通信料がかかります。そのために小遣いが減ったり、外食が減ったりするんですよね。これをですね、無料W i - F i 化、町内全域ですよ。これをすると固定電話でのプロバイダー契約がなくなりますし、スマホのポケット通信料もさらに低額なものに抑えられるので、これはちょっとなかなかいい定住促進施策じゃないかと思うんですけど。

まず、ちょっと一例を紹介します。つい最近、人口 7, 0 0 0 人のある自治体で、群馬県の下仁田町というんですよね、全世帯にスマホを配付するという報道がありました。独居世帯の孤独死、火事などの 2 次災害対策だそうです。これで買い物支援や高齢者の見守り、それと万歩計もついているので、メタボの測定にも使えるといいます。スマホを全戸に支給するというのも今後検討のある施策だと思います。

それで、その環境、無料W i - F i 化という環境をつくれればですね、これは第 2 のインフラ整備として定住化促進のため大変な、重要な施策になってくると思います。また、これをやれば、大変な話題になると思います。

続いて、ふるさと納税について質問します。これは我が町はさほど返礼品に対しては熱心ではないようですが、ことしですね、第 1 回ふるさと納税全国サミットというのがありました。そのサイトを見るとすごく盛り上がっています。ある自治体の職員は地方創生の起爆剤、地方が生き残っていくためのきっかけだとか、自治体に対する通信簿とか言っています。

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

それでは質問 1 です。去年度と今年度、今年度は現在までの寄附額はいくらなのかお聞きします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

26年度が272万5,000円、27年度は11月末ですが、217万円となっております。以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

去年もちょっといろいろ話をしましたが、長崎県の平戸市はですね、去年14億の大台を超えて、今回本まで書きちゃいました。本の書名「平戸市はなぜ、ふるさと納税で日本一になれたのか」、1年で14億の寄附を集めた過疎の町、ふるさと納税による地方創生に挑む舞台裏という本を市長さんが出しました。パラっと見て、冬休みにゆっくり読んでみようと思うんですけど、これ、一人の職員がぜひやらせてくれというので始まったと書いてあります。

芦屋町はですね、そのような職員の方がいらっしゃらないのかなとちょっと思うんですけど、ここですね、僕がちょっと心配するのは、町内からほかの自治体へふるさと納税をやっている人がいるのかなと。せつかくの税収が減っちゃうんです。ということで、これ、質問いいですか。これ、質問します。

芦屋町の在住者で、ふるさと納税をやって町外へ流出した金額はおわかりでしょうか、質問です。

○企画政策課長 柴田 敬三君

今年度分からワンストップサービスができて、五つの団体までの寄附であれば、要は手続、確定申告しなくていいという手続になりますね。この五つまでというところは、寄附したところに申請書を出せば、その申請書がもともとのその方の住まれているところに郵送されますので、来年以降はこの五つの団体までということですけど、そういう方々については、芦屋町の税務課のほうにデータが全部来るということになれば、額と件数はわかるのですが、今年度についてはちょっと承知しておりません。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

はい、わかりました。親切、丁寧な答弁で、来年はちょっとまた質問してみようかと思えます。気になるんですよ、やっぱり。

それですね、砂像展、これ、大変好評でした。大口の寄附金もいくつか見られたようです。それですね、政府は今後、企業版のふるさと納税の検討を視野に入れているということなんです。今回の砂像展やまた評判のいい芦屋釜などは、協賛なんかでふるさと納税企業版が集めやすくなると思うのですが、その点どう思われますか。質問です。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

寄附金という考え方でいくとですね、今、芦屋の花火大会、これもう、ふるさと納税でも今年度実績でも 22 件の 108 万 5,000 円。これはあしや花火大会に使ってくださいということをやっていますね。ふるさと納税に関しましては、芦屋の場合、どういう内容に寄附されますかということで、いろいろ項目があって、その他もあるんですが、県とかいろいろなところとですね、要は寄附したけど、何に使われよかわからないという意味では、芦屋町はですね、特に茶の湯の名器、芦屋釜復興事業に寄附されている方がおられるんですが、ここでは和ずくの購入ですね。これはたたら製法するのに、いい和ずくがあるということで、その和ずくの購入として使っているというのは、県の職員とか、こういうのがとってもいいというような評価があっていまして、こういう芦屋町のように、これにいくら寄附しますとかいうやり方というのはいいものだと思いますので、あとは、今、言われたように砂像でいくらなのか、花火でいくらなのか、今のところ、すみません。うちのふるさと納税では、あしや花火大会事業が上がっていますけど、砂像だけの寄附のふるさと納税の項目はございませんので、そういう分野はまた来年あたり、しっかりフォローしていきたいと思っています。项目的にはオンリーワンの事業ですから、芦屋の砂像展はですね、全国的にそういうことは PR できれば、一石二鳥、三鳥の話になるかと思っています。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

ふるさと納税企業版、ちょっと期待しております。ですね、これは返礼品考えなくていいそうなんです。税法上問題が出てくるということで。また、そういう部門、戦略を考えるシティプロモーション、これは 9 月議会、内海議員さんもちょっと質問していましたが、これからは情報を、このような情報をバンバン発信して、フェイスブック、またあらゆる SNS を使ってですね、

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

速射砲のように、マシンガンのように出し続ける。また営業マンのようにプレゼン資料を持ってですね、大企業に売り込み、これお役人さんが売り込み歩く。小さな町の職員でもですね、本当よその自治体からも出てくると思うんですよ。

今、北九州市なんかですね、企業誘致に走る職員さん、ニュースでちょっと見かけました。工業団地に大きい企業を誘致するんじゃなくて、今来ているのがですね、旧黒崎そごう、八幡井筒屋ですか、その上の空きスペースに富士通のテレフォンアポイント、何ですかね、苦情処理とかそういうテレコムセンターが来ていると。また東区のテレコムセンター、そういうエリアにヤフーのニュースの部門が来ていると。二千何百名くらいの雇用を生んでいると言うんですよ。僕はですね、このふるさと納税の企業版とかそういうのができると、やっぱりシティプロモーション、こういう担当の職員がいて、外にどんどん出て行くようなことをよそがやると言うんですよ。芦屋町もやっぱりその点、乗り遅れないようにやっていただきたいと思います。

それと返礼品について、質問します。これについては、今後も従来と変わらないのかお尋ねします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

返礼品につきましては現在、5,000円以上寄附された方には、芦屋釜の里で販売している和菓子、希望される方には、それに芦屋町誌と芦屋釜展の図録と、また5万円以上の寄附をいただいた方には、芦屋釜の里で制作された工芸品を贈呈しています。26年度は香立てを13名の方、今年度は今のところ11名の方にイカをイメージした風鈴を贈呈予定でございます。この工芸品については、毎年、釜の里スタッフと企画政策課で協議をしております。

芦屋町へ寄附される方は、毎年寄附される方ですが、リピーターと言いますが、約7割を超えております。工芸品の作品の種類は別として、できればもう少し選択の幅があつていいのかなと考えています。特に最近では、特産品だけではなく、お食事チケットや宿泊券、体験型の観光サービスなど、寄附した先の地に足を運んでいただくという分野が広がってきております。さらに、寄附先の市町村に土地や家屋があるけれど、遠く離れているために、その管理が行き届かない方のために、草刈りや掃除、家の管理といった代行サービスのものも出てきております。

総務省からの通達もありますが、国の動向や周辺団体の内容を踏まえながら、前向きに検討したいと考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

これについては、本当、賛否いろいろあっております。

先日ですね、西日本新聞で岡垣町がふるさと納税のお返しに体験型の返礼をするというのがありました。これですね、サーフィンを体験させるというんですよね。岡垣町、最近メディアの使い方がうまいなあと思います。先ほど課長から紹介がありましたけど、年に数回、空き家の清掃や、お墓の清掃を社協にやってもらうというところもあります。何も芦屋町の特産品にこだわらなくていいと思うんですよ。

先週ですね、僕の店にですね、福智町の議員さんが偶然やってきたんですよ。福智町の議員ですが、自分のところはふるさと納税で 3 億集まっていると自慢するんですよ。別にその議員がすごいんじゃないくて、やっぱり職員がすごく頑張っていると。まあその職員を褒めていました。それでですね、福智町のふるさと納税をちょっと見てみたんですよ。特設サイトがあったんですよ。それを見るとですね、IKKOさん、出身なんでしょうね、IKKOさんの書とかが売ってあるんですよ。これ、すごい。完売で今ありませんとか入っていました。今、何が一番人気かとランキングがあります。3 億集めているからですね、何が 1 位なんだろうと思ったら、何と申しますか、町長。これですね、タラバガニ、ズワイガニ、これ、足 2 キロと書いてあるんですよ。ともにロシア産冷凍品で。これ全然、筑豊と何も関係がないんですよ。これですね、マーケティングのうまさなんですよ。今、全国の消費者が何を食べたいかということを知っているんですよ。提供は筑豊の魚市場なんですよ。そして今、きょうでも開いてみてください。最近では博多の有名なホテルのイルパラッツォ、このお節をですね、重箱を始めているんですよ。これもですね、田川と全然関係ないんですよ。これがですね、マーケティング戦略なんだと思います。

どこもですね、総務省通達とか実はお構いなしなんですよ。なぜかということですね、これは僕、ふるさと納税が国から試されているんじゃないかなと思うんです。この発案者は総務大臣時代の、今の官房長官の菅さんなんです。実は菅さんが、この盛り上がり方を横目で楽しんでいないかと思うんですよ。それで、次に来る地方創生の総合戦略は、これ、何でもありませんよ。自由度の高い交付金があるというので、これをどう使うか、これはふるさと納税以上なんですよ。これはですね、慣らし運転、ふるさと納税が慣らし運転のような気がしてならないのです。

それではですね、地方創生総合戦略の推進についてお尋ねします。

①地方創生の先行事業として実施されている、地域消費喚起・生活支援型緊急支援事業プレミアム商品券の発行及び創業支援について、その状況はどのようなになっているのか質問します。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 井上 康治君

プレミアム商品券について、昨年度の消費税引き上げに伴い、消費者の買い控えなど消費の落ち込みが懸念されることから、消費の落ち込みを緩和し、商店街を初め、地域経済の活性化を図るために行ったものです。

財源として、国の地域住民生活等緊急支援のための交付金を活用し、例年より発行枚数を増冊、またプレミアム率を 10%から 20%にアップして、商工会にて発行いたしました。

まず、1冊1万円のにこにこ商品券については、第1回目を5月24日に総額4,000万円分を、第2回目は高齢者、65歳以上や障害者を対象とした、10月15日と16日に総額3,000万円分を、第3回目は1,000万円分を発売しました。

次に、1冊10万円のにこにこ高額商品券については、6月28日に総額7,000万円分を発売しました。

どちらも発行総額がかなりふえたため、売り切れるかどうか心配しましたが、20%のプレミアムは魅力があり、全て完売しております。また、来町者の滞留時間拡大による町内の消費拡大を目的とした新たな商品券、「あしや〇得通貨」を7月1日から発売し、これも完売しています。

次に、創業支援等促進支援事業補助金につきましては、平成26年12月に創設されたものですが、同じく交付金を活用し、補助金の限度額を平成27年4月1日から平成30年3月31日までの間において、100万円から200万円に増額しています。

現在までの交付実績は2件でどちらも上限の200万円となっています。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

創業支援はたった2件、今、採用されているのは1件ですかね。1件は申請中とのことじゃなかったですかね。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 井上 康治君

今、2件となっております。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

ちょっと寂しいような気がするんですけど、これ、商業地域という限定、商業地域の問題じゃ

ないかと思うんですよ。例えば、てのやさん、船頭町にありますよね。てのやさんの空き店舗で、これ申請したら、商業地域から外れているということで、だめだったということなんですよ。この商業地域をちょっと広げるとかですね、芦屋町全域に使えるということ、見直しも改善も必要じゃないかと思うんですが。

よく最近 P D C A サイクルとよく聞きます。最近のお役所言葉、ビジネスツール、よく使っております。ちなみに、この言葉は 1 9 5 0 年代に日本に入ってきた言葉だそうです。目新しい言葉じゃないんですが。

それと最近、商店街の店舗で看板がきれいになったり、改装したりしているのは、これはですね、実は商工会の支援金があるんですよ。この受給についてはですね、芦屋町が福岡県内で 1 位ということです。いろいろ、今、商工会はいろいろなことをしっかりやっております。先日のですね、アクアシアンプールでの釣り堀大会とかですね、大変好評でありました。これはローカルニュースが飛びついていましたので、ぜひ町長からも商工会を褒めていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それとですね、さっきお話しました「〇得通貨」、これ町外者対象ということで、これですね、商工会の資料があるんですが、購入者の一覧とですね、使ったお店での一覧なんですが、使ったところの 2 位のマリンテラス 2 2 5 万 6, 5 0 0 円、これはわかるんですけど、1 位がはまゆうスーパー 2 8 0 万ですね、3 位が福永、4 位が某石油店、5 位がフラップとあるんですよ。どうもこれですね、本来の目的と違っているような感じがしているんですよ。町の近親者の方が頼んで買ってもらったような、そのような感じがしております。

では③、芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的な計画内容をお尋ねします。

これ、川上議員と重複しています。大体、ほぼ内容がわかりました。2 1 日の全協で素案が出るということなんですが、いいですか。じゃあお願いいたします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 柴田 敬三君

具体的な計画内容はこの言葉があるのを鑑みて、ちょこっただけ説明を加えたいと思っております。現在、素案のまとめの段階ですので、確定的でないことを御了解していただきたいと思っております。考え方やポイントについて説明します。

全体として、国の四つの政策目標に合わせて芦屋町も策定しているわけですが、まずイメージとして、芦屋の魅力を生かし、人の流れをつくり、その中で芦屋ならではの仕事づくりに取り組み、さらに若い世代への夢、希望をつなげ、ずっと住み続けたい、時代にあった地域をつくるという構成にイメージがなっております。

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

目標別ではまず、人の流れをつくるの目標では、六つの戦略のもと、特に情報の発信力の強化ということで、シティプロモーション、いわゆる町をセールスするという考え方がポイントの一つになります。また、芦屋ならではのおもてなしや豊富な地域資源をどう生かすかという内容も含まれております。

次に仕事づくりの目標では、四つの戦略のもと、海を生かしたビジネスの創出ができないか、投資が少なくて済む I T やクリエイターなどが誘致できないかという内容になっております。

次に、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができるための目標として、三つの戦略のもと、まず結婚出産の希望実現のための出会いの場の創出や、妊娠期から出産までの支援、子育て世代には、保育サービスの向上などが主な内容となっています。

最後に、ずっと住み続けたい、時代にあった地域をつくるの目標では、三つの戦略のもと、公共交通ネットワークの充実や協働のまちづくりの推進、シビックプライド、いわゆる郷土を思う心の醸成をいかにつくっていくかという内容になっております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

いろいろありがとうございました。

芦屋町は町長もよく言っています、先ほども出ていましたが、やはり海なんですよ。浜崎の港湾をレジャー港にする。これが早く実現できればですね、大きくいろいろなことが波及してくると思います。

それで皆さん、インバウンド、最近よく聞きます。それと爆買い。これ流行語大賞になっておりますが、今、爆買いツアーに博多港や大村湾にフェリーでやっています。貸切大型バスが四、五十台博多港に着き、爆買いツアーへと連れて行ってあります。大体一人、平均 24 万円使うそうです。普通の海外からの観光客は 15 万円といますから、これはやっぱり中国人、台湾人、香港人すごいんですよ。

先ほどもちょっと話しましたが、9月に中国に行ったときに、僕は上海の北九州事務所所長と面会し、長い時間一緒に過ごしました。この人、スーパー公務員なんですよ。「田島さん、インバウンド、インバウンドですよ。」と言うんですよ。この人ですね、上海で何をしているかということ、北九州は公害を克服した町です。いろいろな都市からですね、そのアドバイスしてくれということで、彼はいろいろな面で、公害を克服したことについてアドバイスしてあげているんですが、その代償として爆買いツアーを北九州に計画しているんですよ。実はですね、響灘の大きな港ありますよね。ここをですね、上海からの大型フェリーを就航させる、これを就航させ

るために頑張っています。これは9月の北九州市議会に公表されております。爆買ツアーを誘致する。北九州のその港ですね。これ、芦屋町もこれに乗っからないかなと、僕、思うんですよ。

ちょっとですね、また遊んでみまじょうかね。全国、中国人や台湾人が爆買ツアーに押し寄せて来ています。沖縄でもインバウンドが起きています。沖縄ですね、中国人たちが求めるお土産で、一番人気のあるもの何でしょう。福岡県内で見ると爆買ツアーと違って、沖縄はリゾート気分で来られているんですよ。ちょっとお金を持っている方たちが多いんですけど。これ、何を想像されますか。夕張メロンだそうです。これ、びっくりするんですよ。中国の人から見たら、日本国内どこでも、もう一緒なんです。安心、安全な日本製だったら、夕張まで行かずに、北海道も行かずに沖縄で買えば、そこでいいわけなんです。これ、先ほどの福智町のズワイガニと一緒にですね。これ、マーケティングなんです。視点を変える。変えて見るということも必要じゃないかと思えます。

僕はですね、芦屋町にはまだまだ可能性が秘めております。この地方創生をですね、起死回生のチャンスだと僕は思っております。この地方創生の戦略というのはですね、やはり定住促進になる施策を継続的にやって、住んでみたくなるようなまちづくりにしなきゃならないと思えます。

総合戦略の核の一つに仕事を創出していかなければならないということですが、幸いにも芦屋町は就業者の7割近くは町外へと働きに出ています。しかしですね、町内にいる高齢者がいつまでも働ける環境、そしてわずかでも収入があれば、なおさらいいわけですね。高齢者が元気に働ければ、医療費が抑制できるという事例があります。

今、老人が年金だけでは暮らせないという社会問題が出ております。「老人漂流社会」、こんな本も出ています。これ、NHK特集があったんですね。歳をとるのは罪ですかとか、老後破産、長寿という悪夢。年金生活は些細なきっかけで崩壊すると。月6万、あと半額のおばあちゃんたちの3万じゃ生活ができない。「下流老人 一億総老後崩壊の衝撃」、こういった本が今、出ております。忍び寄る老後崩壊の足音。これは僕の周りでもよく相談があったりしております。

それとは逆にですね、辻本議員の地元の老岐、老岐牛。これ、牛の競りがあるときは、病院が空っぽになるというんですよ。そしてですね、四国の過疎の町、これ映画化になりました。上勝町ですかね、人口2,000人足らずで、過疎の町がですね、刺身のつまもの、落ちてる葉っぱをおばあちゃんたちが拾って、これが年間3億売り上げているというんですよ。こういった事例があつて、ここも高齢者が病院に行く暇がないぐらい忙しいと言っております。

そこでですね、ちょっと、きょう僕が出した資料を5番のところを見ていただきたいんですよ。緑の資料の5番、アマゾンのラストワンマイル。この話をしたいと思えます。これはですね、ウーバーの話と一緒に、今、ICTを使ったさまざまなイノベーションが起きております。アマ

ゾンは今、クロネコヤマトが配送しています。以前は佐川でした。この近所あたりでも 3,000 万ぐらい佐川の売り上げが減ったとそう聞いております。これ、皆さんも経験があるように、不在届けが入っております。これですね、ヤマト宅急便の人も行ったり来たりして、これ、大変なんですね。このラストワンマイルが一番コストがかかると言われています。僕はですね、これを社協がやるとか、もしくは登録している高齢者がですね、近所を配る。そのようなこともスマホやWi-Fiなどがあれば簡単にできるんですよ。お年寄りがですね、気軽に散歩がてらにお小遣い稼げる。そういうのがあれば、また病院の医療費の抑制なんかにもつながるのじゃないかと思います。

そして、そして芦屋の強みは、やはり、海を取り巻く環境にあると思います。砂像展の成功、夏のプールも過去最高の入場者でした。ついこの間の航空祭も、連休の中日ということもあって、過去最高の来場者でした。航空祭、今までとは違った新たな客層がありました。僕もびっくりしたんですが、前日の夕方からですね、商店街をうろうろ、たくさんの観光客が食事にと出てたんですよ。僕は、どこに泊まっているのかなど。ほとんどマリンテラスとか、マリンテラスは報道機関でいっぱいですし、きんすいなんかOBの人で、毎年1年以上前から満室の状態なんですけど。聞いてみるとですね、「車で泊まるんです。」と言うんですよ。神戸とか宮崎とかから来ていると。中央公園とか海浜公園に車をとめているんですよ。これ、観光協会を確認してもらったら、わかるんですよ。本当、何十台かとめてあげていました。僕はですね、ここでね、いろいろなところで言っているんですけど、海浜公園を常時オートキャンプ場にすればですね、いいんじゃないかと思うんです。これ、海から歩いて来れる商店街って全国どこを探してもないんですよ。あの距離って僕らは車じゃないと行けないような感じなんですけど、秋葉原とか原宿歩くより近いんですよ。

そして、キャンプ白書というのがあります。それによればですね、750万人のキャンプ愛好家があります。最近ではキャンピングカーが人気だと言っております。キャンパーは荷物を少なく移動するんですね。食材なんかは現地調達するんですよ。必ずお金を落とすように、初日はバーベキューをして、2日目はですね、おいしいところに、食いどころに食べに行くというのが、キャンパーの普通の行動の要件らしいんですが、芦屋町の広大な海浜公園が、これ、オートキャンプ場だったらですね、いろいろな展開が波及してくると思うんですよ。中国や台湾からのインバウンドも僕は狙えると思います。この人たち、アンケートをとったら、「また来たい。」というんですよ。今度はツアーじゃなくて、自由に回りたいというんですね。中間に世界遺産もできましたし、このあたりですね、マリンテラスとかきんすいとか、あと波津とかに行かないと泊まる場所がないんですね。僕もそうでしたけど、最初はアメリカ、ホームステイにパックで行って、次からは自由に行きたいということで、レンタカーを借りて、モーターを回ったりとかしたんで

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

すよね。そういう第 2 世代、第 3 世代になると、車でどんどんどん彼らが来るようになれば、必ずオートキャンプ場の利用もあると思いますが、芦屋町はですね、まだまだ可能性を秘めた町だと思っております。

これから実施計画、四、五十の施策が上げられるということですが、本当、大いに期待しているところではありますが、最後に芦屋町の地方創生総合戦略に対する町長の考えをお聞かせください。これは具体的なものが全協で示されるというので、感想を。この 1 時間近くの感想をお願いいたします。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野 茂丸君

ちょっとお聞きしていいですかね。反問権ではありません。一般質問ではなく、田島議員が今ずっとお話されたことの感想でいいんですか。（発言する者あり）

ずっとお聞きしておったんですが、よくお勉強されているなという気がするわけではありますが、まあしかし、田島君と私、歳がずいぶん違いますのでですね、感覚的なちょっと違和感も感じる場所もあったわけではありますが、先ほどの中国の爆買いというもの。よく出張させていただきま。東京はすごいですよね、あの爆買いというのは。それからいろいろ、11月にいろいろな総会がありまして、港湾協会の総会がありまして、そのとき、各九州の港湾があるところに御意見のある方ということで、10人ぐらいそのほとんどの方が、今、田島君が言われたように、中国人を目当てに港を大きな船が係留できるようにというお金の、補助金の要求ばかりされていきました。芦屋のほうはもうただ、港湾からレジャー港へと用途の変更というお願いをしただけのことでした。

大きな話、それから実際、これなら芦屋町できるのではないかなというような、ちょっと頭の中で、こういろいろ整理しながら、田島議員のお話、お聞きさせていただいたんですが、いずれにせよ、田島議員が言われたように詳しいことは本当、きょう川上議員からも地方創生、田島議員からも地方創生の質問が出て、実はもう、さっき企画課長もお話しましたようにですね、全協で詳しく中身について説明しますのでですね、一般質問で話ができない部分というのがかなりあるので、一般質問でお話、多分、企画課長もしたいと思います。質問だから。そうするとほかの議員さんから叱られますのでですね、抑えるのになかなかやっぱり大変ものがあるわけですが。

いずれにせよ、ちょっと田島議員が触られましたように、芦屋は海しかないんですよ。行き着くところも海。この海を生かして、そして定住化はもちろのこと、それから雇用の場、そういうのを誘致するという形の中で、これを生かして、そして私はよく言うんですが、定住化、定住

平成 27 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

化という形の中で、海が好きな人に住んでもらえればいいのではないかと。面積もたいした面積もないしですね。そういう形の中で、今、戸建ての住宅がどんどん空き家ができておりますので、そのこともどういう形で生かしていくかという形で、芦屋は芦屋らしさの、いわゆる地方創生をやればいいのではないかなと思っております。そのキーポイントになるのは、港湾問題であり、商業港をなんとかレジャー港に、ここさえ解決すれば、あと視野がどんどんどんどん広がってくるし、田島議員が合間、合間の中で言われました、いろいろなオートキャンプの問題だとか釣り公園、いろいろあるんですね。釣り公園もあれば、ビーチサッカー、ビーチバレーボール、言っておりますように、冬だけじゃないんですよ、春、夏、秋、いろいろな人がおいでになる。

私はいつも言うんですが、背中が芦屋のように、背中が大きいところはないと。キーポイントを海において、北九州、筑豊地域全体を背中に持つておるということですね。今、まさに連携という形の中に北九州市との連携。それから宗像のほうとも連携と。そのちょうど中心地に芦屋がありますので、今からいろいろな形の中で、議員の皆さん方からいろいろな御意見を承って、いろいろな形の中でやっていけば、必ずすばらしい町になると確信しておりますので、今後とも建設的な意見をぜひ承りたいと思っております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

現在策定中の中で際どいことをお聞きしまして、大変申しわけなかったと思いますが。実はもう本当、四、五十の施策、これを大変期待しておるところであります。また、今度の全協といい、3月議会でいろいろやってみたいなと思っております。本日はありがとうございました。

以上で私の質問を終わらせていただきます。

○議長 小田 武人君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。